令和８年度全国学力・学習状況調査における結果について

■　令和８年度全国学力・学習状況調査の概要

１．調査の目的

・義務教育の機会均等等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査対象及び調査方式

小学校第６学年、中学校第３学年

３．調査実施日

令和８年４月２３日（木）（小６国語・算数、中３国語・数学）

令和８年４月２４日（木）～３０（木）（小６児童質問調査）

令和８年４月２０日（月）～２３（木）（中３英語（３技能）・生徒質問調査）

令和８年４月２４日（金）～５月８日（金）（中３英語話すこと）

４．調査内容

（１）教科に関する調査（小６国語・算数、中３国語・数学・英語）

（２）生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

■　教科に関する調査　　小学６年生　国語科

全体の概要
・全体的には県平均とほぼ同じでしたが、全国平均を大きく下回っていました。
・観点別にみると、知識・技能については、県平均とほぼ同じでしたが、全国平均を大きく下回っていました。思考・判断・表現については、県平均をやや下回っていましたが、全国平均を大きく下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題、話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる問題に課題が見られました。	○新出漢字の反復練習にとどまらず、作文や振り返り、日記等の実際に文章を書く場面において、既習漢字を積極的に使わせるとともに、同音異義語などにも着目させ、文脈に応じて適切な漢字を選択する力を育成する。 ○説明、報告、提案、物語等について、「何を目的とした文章か」「どのような構成になっているか」などを比較する活動を取り入れ、文章の種類とその特徴について理解を深める。
思考・判断・表現	書くことの問題に課題が見られます。特に、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる問題、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題に課題が見られました。	○いきなり文章を書かせるのではなく、「何を伝えるのか」「どの順序で書くのか」「どの資料を根拠として使うのか」など、文章全体の構成や展開を考える時間を十分に確保する。 ○資料や文章の一部を適切に引用し、「引用した内容」と「そこから考えたこと」を明確に区別しながら、自分の考えを説明する活動を各教科等でも意図的に設定する。

■　小学６年生　算数科

全体の概要
・全体的には県平均とほぼ同じでしたが、全国平均は、大きく下回っていました。
・観点別にみると、知識・技能については、県平均とはほぼ同じですが、全国平均を大きく下回っていました。思考・判断・表現については、県平均とほぼ同じでしたが、全国平均をやや下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる問題や体積の意味について理解しているかどうかをみる問題に課題が見られました。	○直方体について、見取図や展開図だけで理解させるのではなく、実際に箱を組み立てたり展開したりする活動を通して、面や辺の位置関係を捉えさせる。 ○「縦×横×高さ」の公式を使えることだけを目標とせず、1㎤の立方体がいくつ分あるかという量の意味と公式を関連付けて理解させる。
思考・判断・表現	日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題に課題が見られました。	○身の回りの箱や容器などを題材として、「何を求めるのか」「どの長さが必要なのか」を図や具体物を用いて整理する活動を設定する。 ○式を立てて計算するだけで終わらせず、図、式、数、言葉を関連付けながら、求め方や考え方を説明する活動を日常的に取り入れる。

■　教科に関する調査　　中学３年生　国語科

全体の概要

・全体的には県平均とほぼ同じでしたが、全国平均は、やや下回っていました。
・観点別にみると、知識・技能については、県平均とほぼ同じでしたが、全国平均は、やや下回っていました。思考・判断・表現については、県平均とほぼ同じでしたが、全国平均よりやや下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる問題で課題が見られました。	○辞書的な意味を確認するだけでなく、「この文章ではどのような意味で使われているか」「別の言葉に置き換えるとどうなるか」など、前後の文脈を根拠として語句の意味を考える活動を取り入れる。
思考・判断・表現	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる問題、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる問題に課題が見られました。	○単なる意見交換で終わらせず、「何について合意するのか」「どのような結論を目指すのか」を明確にし、互いの意見の共通点や相違点を整理しながら、考えをまとめる活動を設定する。 ○文章の内容を読み取るだけで終わらず、「筆者の考えについて自分はどう考えるか」「その根拠は文章のどこにあるか」など、文章を根拠として自分の考えを形成・更新する活動を充実させる。

■　中学３年生　数学科

全体の概要

・全体的には県平均をやや下回っていましたが、全国平均を大きく下回っていました。
・観点別にみると、知識・技能については県平均とはほぼ同じでしたが、全国平均をやや下回っていました。思考・判断・表現については県平均、全国平均を大きく下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	２直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる問題、具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる問題について課題が見られました。	○平行線の性質や平行になるための条件等について、用語や条件を暗記させるだけでなく、図を操作したり、条件を変えて比較したりする活動を通して理解を深める。 ○証明問題では、「何が分かっているのか（仮定）」「何を示すのか（結論）」を図や文章から取り出して整理する活動を繰り返し行う。
思考・判断・表現	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題、筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題について課題が見られました。	○式やグラフ等を作成することだけで終わらず、「この式の数値は何を表しているのか」「この結果から実際の場面では何が言えるのか」など、数学的な結果を具体的な事象に戻して説明させる。 ○仮定から結論までに必要な根拠を整理し、「なぜこの性質が使えるのか」を生徒同士で説明・検討する活動を設定することで、筋道を立てて考える力を育成する。

■　中学３年生　英語科

全体の概要

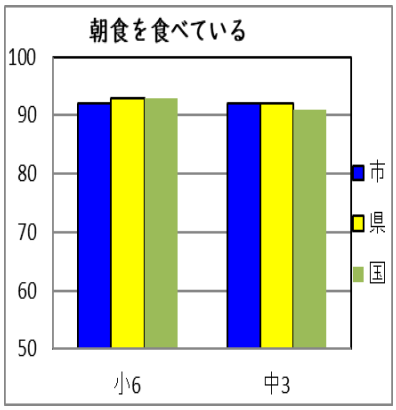
・全体的には県平均、全国平均を大きく下回っていました。
・観点別にみると、知識・技能では、県平均をやや下回り、全国平均を大きく下回っていました。思考・判断・表現については、県平均、全国平均を大きく下回っていました。

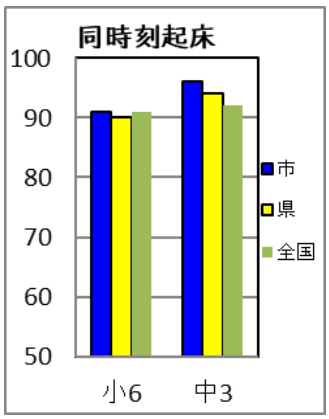
観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる問題に課題が見られました。	○語彙や文法事項の習得を単独の練習で終わらせず、自分のことや身近な出来事について書いたり、相手に伝えたりする活動の中で繰り返し活用させ、知識を技能として定着させる。
思考・判断・表現	日常的な話題について、目的に応じて、あるいは、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題や日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題に課題が見られました。	○英文を最初から全て日本語に訳すことに偏らず、「何のために読むのか」「どの情報が必要なのか」を明確にした上で、必要な情報を選択して読み取る活動を設定する。 ○英文を書く前に、「誰に」「何を」「何のために」伝えるのかを明確にし、事実・自分の考え・理由等を整理させる。その上で、複数の文をつなぎ、まとまりのある文章を書く活動を継続的に設定する。 ○英文から必要な情報を読み取り、その情報を踏まえて自分の考えを書くなど、複数の領域を統合した言語活動を意図的に設定する。

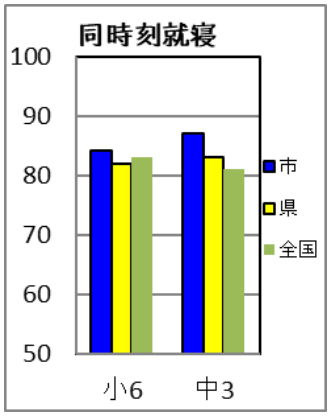
■　生活習慣等に関する質問紙調査　小城市の概要・考察

【　基本的な生活習慣について　】

	調　査　の　項　目
①	朝食　　※している・どちらかといえばしていると答えた児童生徒の割合
②	同時刻起床　　※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
③	同時刻就寝　　※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合

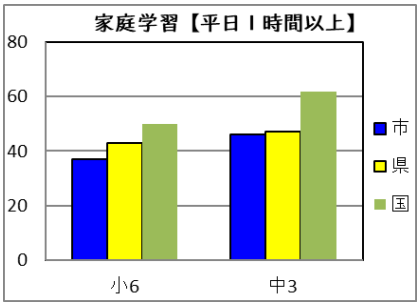


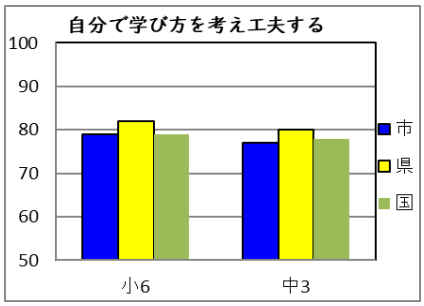


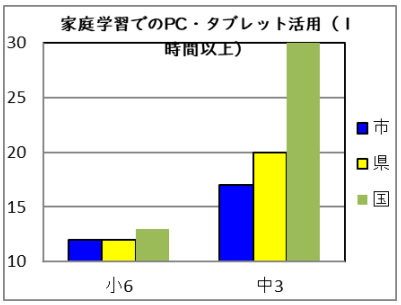


・「朝食」「同時刻起床」「同時刻就寝」の項目から、基本的生活習慣の定着がうかがえますが、１割弱の児童生徒については、朝食を含めた生活リズムへの課題も見受けられます。今後も、家庭との連携を大切にしながら『早寝・早起き・朝ごはん』を合言葉に、自律的に健康的な生活習慣を維持していく必要があります。

	調　査　の　項　目
④	家庭学習　　※平日１時間以上家庭学習していると答えた児童生徒の割合
⑤	自分で学び方を考え工夫している ※できている・どちらかといえばできていると答えた児童生徒の割合
⑥	家庭学習でのPC・タブレットの活用 ※平日の家庭学習におけるPC・タブレットの活用時間を１時間以上と答えた児童生徒の割合



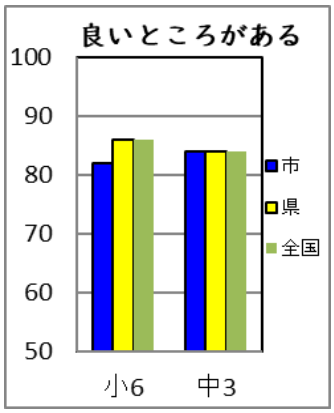


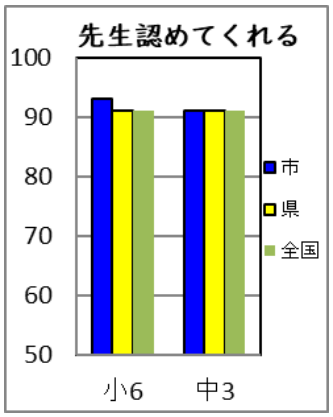


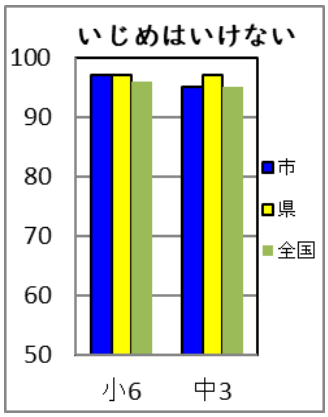
家庭学習に平日１時間以上取り組んでいる児童生徒の割合は半数に届いておらず、全国と比較すると割合は低くなっています。また、自分で計画を立てて勉強している割合も低くなっています。家庭学習を「与えられた宿題をこなす時間」だけにせず、授業と家庭学習をつなぐ視点を重視していく必要があります。例えば、授業の終末で「今日の学習で十分理解できなかったこと」「さらに調べたいこと」を振り返らせ、それを家庭学習につなげるなど、自分に必要な学習を自分で考える仕組みを取り入れることが考えられます。家庭学習におけるPCの活用は可能としていますが、今後、効果的な活用方法についても併せて検討していく必要があります。

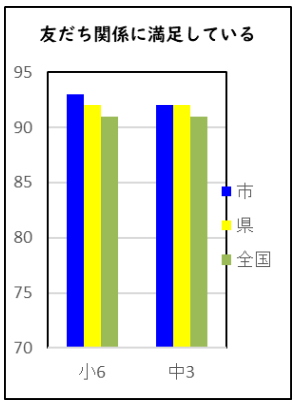
【　その他の項目について　】

	調　査　の　項　目
⑦	良いところがある　　※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
⑧	先生認めてくれる　　※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
⑨	いじめはいけない　　※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
⑩	友達関係に満足している※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合



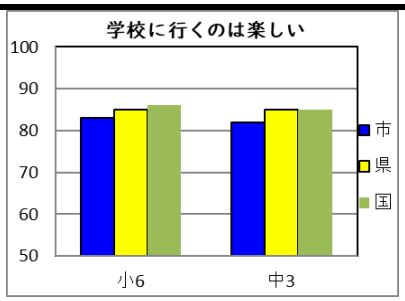


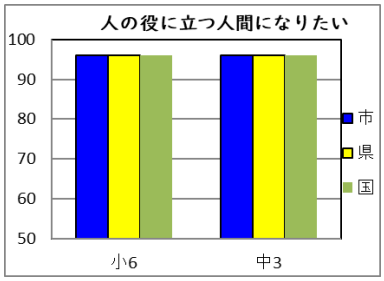




「自分に良いところがある」と回答した割合は、小6が県・全国と比べるとやや下回っています。一方、中3は県・全国と同程度となっています。小6については、自分のよさや成長を実感できるような取組を一層充実させることが大切です。「先生が認めてくれる」は、小6が県・全国をやや上回っています。中3も県・全国と同程度であり、教師による肯定的な関わりが一定程度定着していることがうかがえます。 「いじめはいけないこと」は、小6が県と同程度、全国をやや上回っています。中3は全国と同程度ですが、県をやや下回っており、引き続き人権意識や規範意識を高める取組が必要です。「友だち関係に満足しているか」は、小6が県・全国をやや上回っています。中3も県と同程度、全国をやや上回っており、良好な友人関係が形成されていることがうかがえます。今後も、児童生徒一人一人のよさを教師が積極的に認めるとともに、互いのよさを認め合える学級・学校づくりを進めることが大切です。特に小6の自己肯定感の向上を意識し、児童生徒が「自分にはよいところがある」と実感できる教育活動の充実を図る必要があります。

【　おわりに　】





８割以上の児童生徒が学校に行くのが楽しいと回答しています。今後も“学校が楽しい”“友達過ごすことが楽しい”と感じる児童生徒を一層増やしていきたいと思います。
質問調査から、基本的な生活習慣については概ね良好な状況が見られるましたが、家庭学習時間や、自ら学び方を考え工夫することについて課題が見られますた。今後は、家庭学習の時間を確保することに加え、授業と家庭学習をつなぎ、児童生徒が自分に必要な学習を考え、学び方を選択し、振り返ることのできる「自律した学習者」の育成を図ることが重要です。また、「人の役に立つ人間になりたい」という児童生徒の高い意識を本市の強みとして捉え、学校・家庭・地域との関わりの中で、主体的な行動ができるような教育活動を実現していきたいと思います。